

# 世界に伍するスタートアップ・エコシステムの形成に向けて

---

令和3年3月

内閣府



## 都市

### 戦略1：世界と伍するスタートアップ・エコシステム拠点都市の形成

- 自治体、大学、民間のコンソーシアム形成
  - ・グローバル拠点都市：2-3箇所
  - ・推進拠点都市：数カ所程度



City / Community

- ランドマーク・プログラムの招致
- 世界への情報発信の強化・起業家や投資家の招致 等

連携

活用

## アクセラレータ

### 戦略3：世界と伍するアクセラレーション・プログラムの提供

- グローバルトップアクセラレーターと連携したプログラム、日本のアクセラレーション機能の強化 等

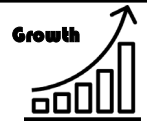


Acceleration

## Gap Fund

### 戦略4：技術開発型スタートアップの資金調達等促進（Gap Fund）

- 日本版SBIR制度の見直しと支援成果の公共調達への繋ぎ
- ファンディングエージェンシー等での大規模なGap Fund供給 等



Growth

## 公共調達

### 戦略5：政府、自治体がスタートアップの顧客となってチャレンジを推進

- 入札へのスタートアップ参加促進の方策の検討と地方自治体のトライアル発注制度等の活性化 等



Procurement

## 大学

### 戦略2：大学を中心としたエコシステム強化

- 起業家教育プログラムの強化
- 官民によるシーズ研究の発掘と若手研究者の育成 等



Mindset / Education

## 繋がり形成、人材流動化

### 戦略6：エコシステムの「繋がり」形成の強化、気運の醸成

- JST-NEDO連携強化を軸とした横断的な創業支援システムの構築、オープンイノベーション推進組織の強化 等

### 戦略7：研究開発人材の流動化促進

- 民間HR企業との連携による人材流動化検討委員会、出向、出島形成等の人材流動化プロジェクト等の支援 等



Network



Mobilization

# スタートアップ・エコシステム拠点都市

## 【グローバル拠点都市】

### スタートアップ・エコシステム東京コンソーシアム

(東京都、川崎市、横浜市、和光市、つくば市、茨城県等)

スタートアップやVC・大企業等の支援者が圧倒的に集積する東京都心部(渋谷、六本木・虎ノ門、大手町・丸の内、日本橋)を核に、ハブ&スポークの連携で研究開発拠点を有する各都市(川崎、横浜、和光、つくば)と連結。

小池知事直属の支援チームが民間と協力しつつシリコンバレー(Plug and Play, 500 Startups, Google等)、

ボストン(Cambridge Innovation Center等)とも連携。東京大(五神総長のもと学内インキュベーション施設を開設)、慶応大、早稲田大など有力大学でワーキングを作り起業家育成。

### Central Japan Startup Ecosystem Consortium (愛知県、名古屋市、浜松市等)

日本を代表する製造業の集積とスタートアップとの繋がりでイノベーション創出を加速。モビリティ、インフラ、ヘルスケア、アグリ、光などを重点分野に協創プロジェクトを推進。名古屋大学を中心とする大学群で起業家教育・デジタル教育を強化。日本最大級のスタートアップ拠点「Station Ai (フランスのStationFに対抗)」を整備。

### 大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム (大阪市、京都市、神戸市等)

三都市の強みを融合(大阪:大企業、資金、人材、京都:研究シーズ、製品化支援、神戸:社会実証実験・公共調達)。ヘルスケア、ものづくり、情報通信分野に重点。大阪大学、京都大学、神戸大学を中心に大学・研究機関、企業が連携。「大阪・関西万博」に向け経済界を含め京阪神一体となった支援体制を構築し、スタートアップの新技术・新サービスの機会創出を実施。

### 福岡スタートアップ・コンソーシアム (福岡市等)

2012年「スタートアップ都市宣言」以降、一貫して官民協働による起業支援やスタートアップのコミュニティ形成を推進。九州大学「起業部」をはじめ若手の活動が活性化。独立系VCの活躍、大型スタートアップイベントの定期開催、海外との連携強化などエコシステム形成が加速中。支援の更なる強化とFUKUOKA Smart EAST等での実証実験・公共調達等を通じたスタートアップを軸としたイノベーション創出を実施。

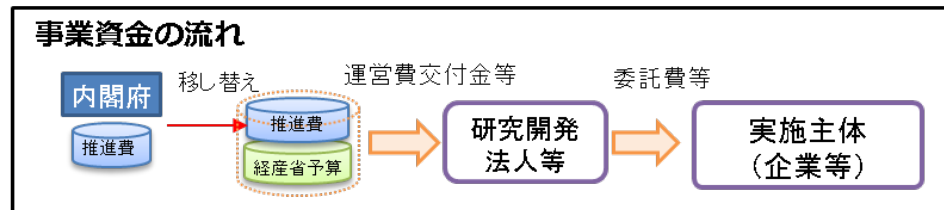
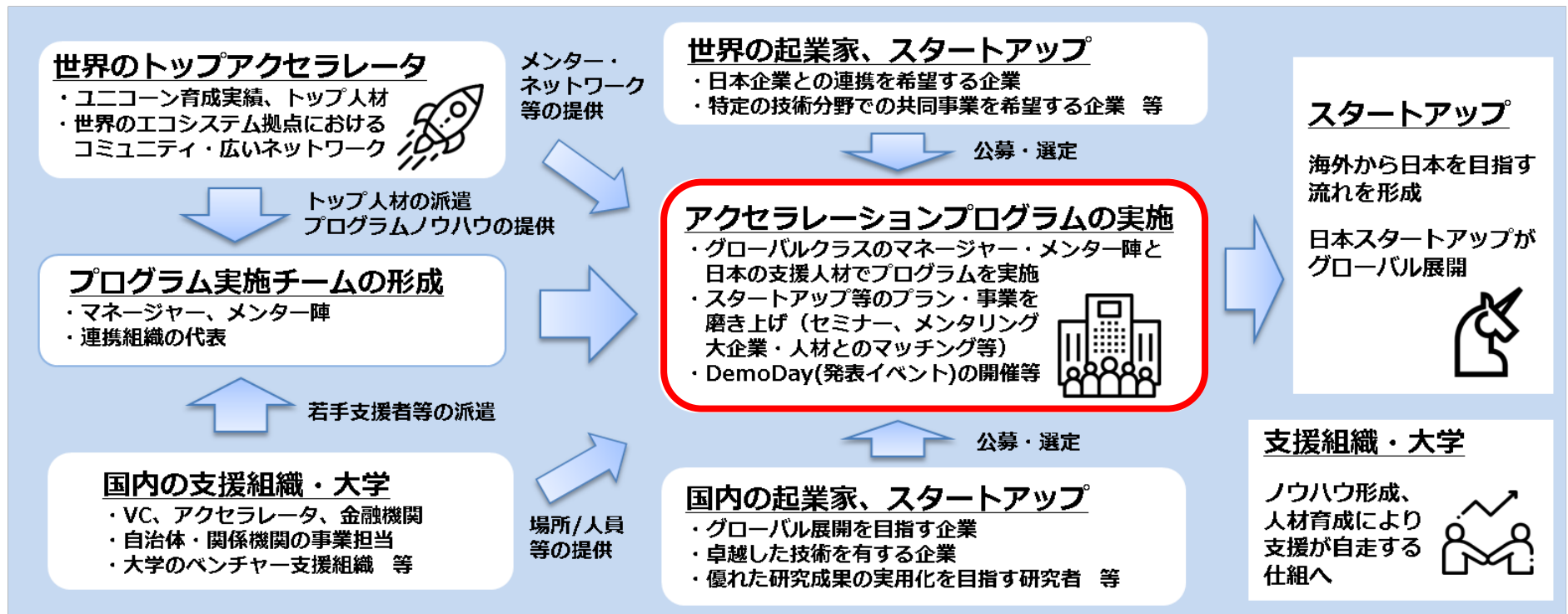
## 【推進拠点都市】

札幌・北海道スタートアップ・エコシステム推進協議会(札幌市等)、仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会(仙台市等)、広島地域イノベーション戦略推進会議(広島県等)、北九州市SDGsスタートアップエコシステムコンソーシアム(北九州市等)



# スタートアップ・エコシステム拠点形成支援事業（PRISMの内数）

- エコシステム形成と成長促進、官民の投資を誘発するため、拠点都市支援のランドマーク・プログラムとして、アクセラレーション事業を経済産業省のJ-StartupへのPRISM予算の上乗せにより実施。
- 選定された拠点都市で海外トップアクセラレータのプログラムを実施し、世界に羽ばたくスタートアップの育成、世界のトッププレーヤーと各拠点の支援組織の繋ぎやノウハウの移転を実施する。支援する分野や開催形態は各都市と調整。（実施期間は3-4カ月程度。支援分野については、グローバルに競争するAI、IOT、ロボット、ライフサイエンス、素材、環境/エネルギーなどの技術系を想定。）



選定された拠点都市でグローバル視点のスタートアップ育成、支援人材の交流による支援ノウハウの伝達を促進。あわせて投資の実務・契約の基本・事業展開のスピード感などエコシステムの基盤となる知見や行動様式等もグローバル水準に合わせることに貢献。

# スタートアップ・エコシステム形成に向けた基本方針

- コロナウイルス感染の拡大に伴い、スタートアップ向けのリスクマネー供給の減少、事業展開や研究開発の停滞等、自律的なエコシステム形成に向けたリスクが顕在化。現在、大きな分岐点に。
- スタートアップは、その機動性で、今後の社会変革に対応するイノベーションを牽引するキープレイヤー。
- スタートアップ・エコシステム拠点形成戦略（2019.6）に基づき、エコシステムの中核となる拠点都市を選定。
- 今後3年間で集中支援期間に → スタートアップ・エコシステム支援パッケージ

## スタートアップ・エコシステム支援パッケージ

### 世界に伍するスタートアップを支える支援体制の構築

- 政府系スタートアップ支援機関の支援プラットフォーム（事業規模約1,200億円）※拠点都市と連携：集中支援を実施
- 官民ファンドによるリスクマネー供給の強化 等

#### スタートアップの「創出」

- アントレプレナーシップ\*教育の推進
  - ・ 希望する学生すべてが受講できる環境を拠点都市の関連大学で整備
  - ・ 拠点都市の産学官による、起業に向けたより実践的な講座の開設（在学中の起業体験、ベンチャーへのインターン等）
- 創業期のギャップファンド強化 等

#### スタートアップの「育成」

- SBIR制度改革による成長支援
  - 各省庁が連携し、研究開発の初期段階からの連続的支援と公共調達を促進
- 不公平となるような大企業との契約を是正（ガイドライン策定） 等

#### 世界との「繋ぎ」

- J-Startup\*\*地域版の立ち上げ
  - 地域スタートアップの世界へのブランド化
- JETRO等による海外発信 等

\* 起業家精神（起業に限らず、新事業創出や社会課題解決に向け、新たな価値創造に取り組む姿勢や発想・能力等）

\*\* 官民連携によるスタートアップ育成支援プログラム

# 政府系スタートアップ支援機関の連携によるワンストップサービス機能強化

スタートアップ支援を行う9機関でMOUを締結し、スタートアップ支援機関プラットフォームを創設（通称 Plus（プラス）“Platform for unified support for startups”）。今後は、スタートアップ・エコシステム拠点都市とも連携しながら、当該協定を中心とした支援機関連携の拡大（政府系機関、金融機関、ベンチャーキャピタル等）や、個別機関間の取組の深化を通じて、スタートアップ・エコシステムの形成を目指す。

## スタートアップ支援における従来の課題

- 各機関がバラバラに支援メニューを出している  
⇒ スタートアップにおける情報収集コストが高い
- 支援機関間で情報共有・政策連携が不十分  
⇒ 質の高いスタートアップに対して集中支援が行われない

## スタートアップ支援機関プラットフォーム

産総研、農研機構、AMED、IPA、JST、NEDO、中小機構、JICA、JETROの9機関が参加\*し、ワンストップサービス機能を強化する（事業規模の合計は 約1,200億円） \* 2020/7/16 現在

### 支援機関の特性に応じて一貫通貫の支援を実施



### 具体的な取組内容

#### 【取組1】 支援情報の共有・整理・発信

定例会の実施、支援施策の一元的な情報発信、ワンストップ窓口を設置

#### 【取組2】 個別事業の相互連携の促進

参加機関間の支援メニューを連携させて、支援の幅を拡大

## 一貫通貫した支援の例



研究開発支援による大学発ベンチャーの創出

事業成果・  
評価結果の共有



研究開発型スタートアップの研究開発支援

事業内容・  
海外展開ニーズ共有



日本貿易振興機構(ジェトロ)

現地アクセラレータ支援の活用した海外展開支援

# スタートアップの創出：アントレプレナーシップ教育とスタートアップ創出支援

ウイズコロナ・アフターコロナの時代において、自ら社会の課題を発見し、周囲のリソースや環境の制限を越えて行動を起こし **新たな価値を生み出していくアントレプレナーシップ**※の醸成は **社会全体で必須**であり、そのために必要な **学習や実践の機会を提供するアントレプレナーシップ教育を強力に推進**。大学発ベンチャーの創出・成長に向けた支援体制・環境整備とあわせて一体的・重点的に支援。

※起業家精神（起業に限らず、新事業創出や社会課題解決に向け、新たな価値創造に取り組む姿勢や発想・能力等）

## 拠点都市における大学 アントレプレナーシップ教育・スタートアップ創出の一体的・重点的支援

### EDGE-NEXT※等による支援

※次世代アントレプレナー育成事業

#### 起業家精神（アントレプレナーシップ）教育

実践的な教育プログラム

知識・思考法の取得

**希望する学生すべてがアントレプレナーシップを身に付けられる環境を拠点都市の関連大学で整備**

### START、SCORE※等による支援

※大学発新産業創出プログラム、社会還元加速プログラム

#### スタートアップ創出に向けた研究開発

先進的な研究開発

試作品開発

### SCORE大学推進型等による支援

#### 起業活動や人材育成のための環境整備

大学の支援体制

ITインフラ等

我が国全体での裾野拡大に資するアントレ教育・支援のネットワーク・コミュニティ形成

成長性の高い有望な大学発ベンチャーを創出

さらに、官民イノベーションプログラム、SUCCESS※による出資を通じて、拠点都市大学から創出されたスタートアップのシード期・アーリー期の成長を強力に支援

※出資型新事業創出支援プログラム

# 日本版SBIR制度の推進①

- 米国SBIR制度を参考に、日本では「中小企業技術革新制度（日本版SBIR制度）」を1999年から実施。スタートアップ・中小企業者等に対して、研究開発に関する補助金・委託費等（特定補助金等）の支出機会の増大を図るとともに、その成果の事業化支援を行い、これまでのべ116,000社、1.5兆円の規模で支援してきた。
- しかし、現行制度は、米国制度と異なり、成長企業の創出や支援先企業のパフォーマンスの面で課題。

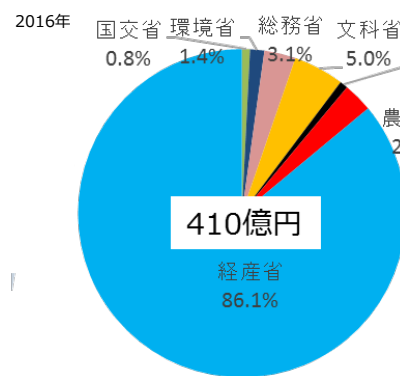
## 現行制度の課題

### 1. 支出目標の対象分野の偏り・戦略性の欠如

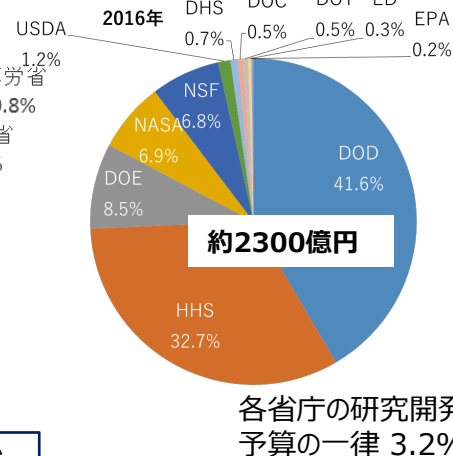
- イノベーションの多様性を踏まえれば、各省庁の事業分野で幅広く取り組むことが重要。しかし、現状の特定補助金は、**各省提案の「積み上げ」のためバランスに偏りがある。**支出機会増大や戦略的实施が不十分。

### 各省庁の支援金額

#### 日本



#### 米国

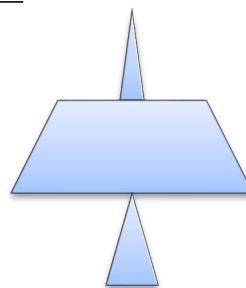


### 2. 支援フェーズ等の偏り、連続的な支援の不足

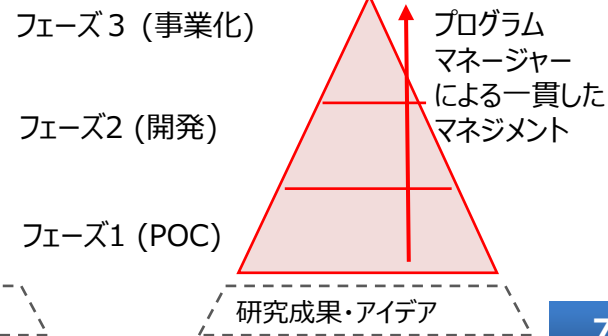
- イノベーションの不確実性からは、初期段階の件数を増やし、芽が出たものに支援を重ねる多段階選抜が重要。しかし、現状は、**初期段階(F/S, POC)の支援が手薄**な状況。
- 行政で必要な技術やサービスの**課題設定による連続的な支援が不在。**（調達や民生利用に結び付きにくい）。

### フェーズ毎の支援金額イメージ

#### 日本



#### 米国



### 3. 効果向上の統一ルールやプログラスマネージャーの不在

- 「交付の方針」で規定する、多段階選抜、外部評価、手続改善、前払制導入など**留意すべき事項の実効性が低い。**（現状は努力目標のみ）
- 適切な課題設定や実用化を支援する**プログラスマネージャーが不在。**

研究成果・アイデア

研究成果・アイデア



# 日本版SBIR制度の推進②

- SBIR制度の実効性を向上させるため、内閣府を司令塔とした省庁横断の取組（支出目標や統一ルールの方策等）を強化するための見直しを実施（2020年6月法律改正、2021年4月1日施行）

## 新制度の概要

### 1. 制度目的・実施体制の見直し

○科技イノベ活性化法へ根拠規定を移管。制度目的をイノベーション創出とし、内閣府を司令塔とした省庁横断の取組を強化

### 2. スタートアップ等への予算の支出機会の増大（支出目標の策定と実施）

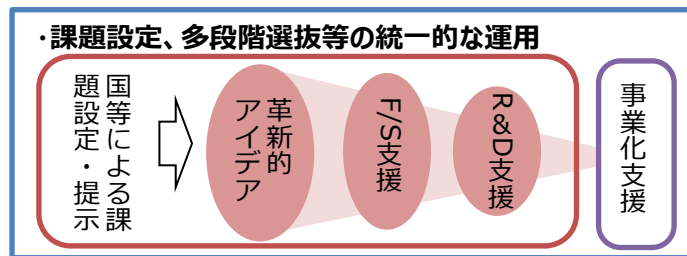
○支出の目標に関する方針の作成

- ・ スタートアップ等への支出機会の増大を図るため、研究開発の特性等を踏まえつつ、各省の特定の研究開発予算（特定新技術補助金等）の一定割合がスタートアップ等へ支出されるよう、支出目標を設定

### 3. 各省統一的な運用と社会実装の促進

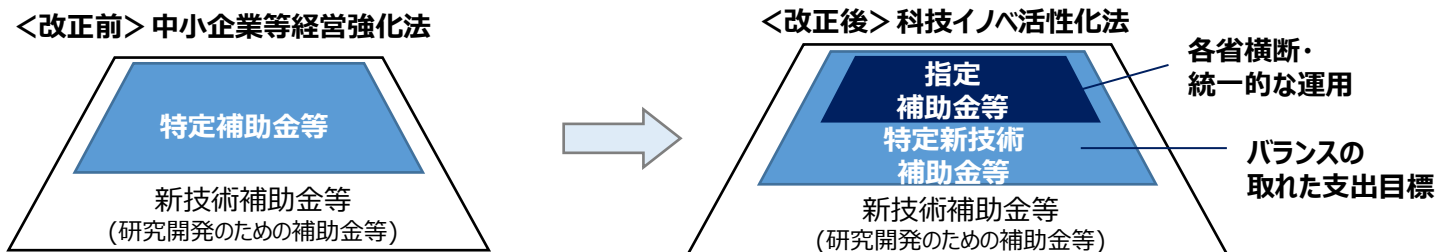
○公募・執行に関する統一的なルール

- ・ 各省の指定の補助金等（指定補助金等）の統一的なルールとして、
  - ①政策ニーズに基づく研究開発課題の提示、
  - ②段階的に選抜しながらの連続的支援、
  - ③プログラムマネージャーによる運営管理、調達・民生利用への繋ぎ等の支援、
  - ④スタートアップ等に適した運用、審査基準、体制の標準化などを検討。



○研究開発成果の社会実装のため、随意契約制度の活用など事業活動支援等を実施

※ この他、法律外で政府調達での入札資格の特例や、SBIR特設サイトでの採択企業紹介等

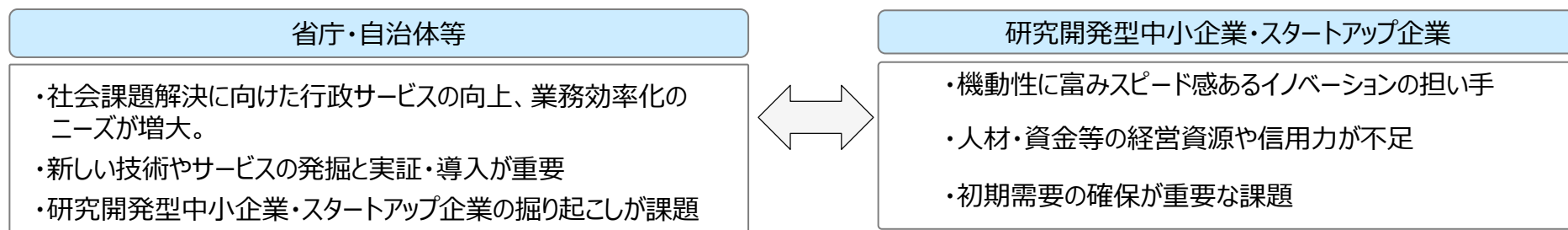


➡ 本制度の実効性を高め、スタートアップ等によるイノベーション創出を促進

# 内閣府オープンイノベーションチャレンジ

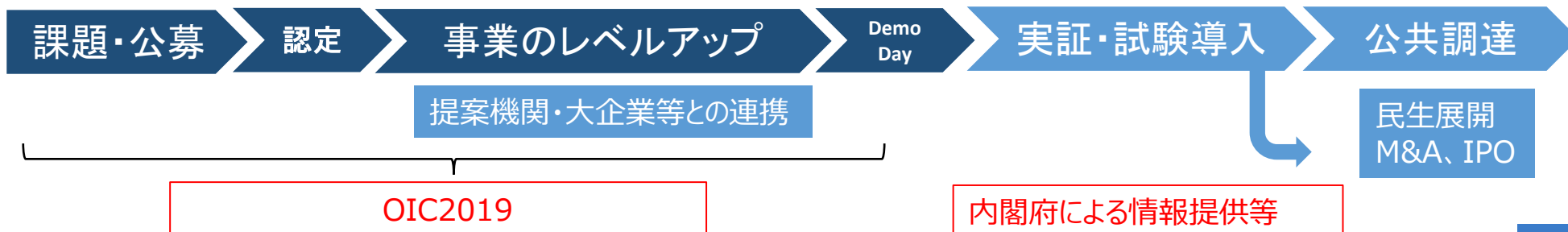
## 【背景】

- 社会課題の解決に向けた行政サービスの向上や、業務効率化の推進のために、省庁・自治体においては、新技術や新サービスの導入が求められている。しかし、その担い手たる研究開発型中小企業・スタートアップ企業との出会いや連携の機会は少ない。
- 研究開発型中小企業・スタートアップ企業（中小・スタートアップ企業）は新しい技術やサービスはあるものの、人材・資金等の経営資源や信用力の不足から、その実証や導入を省庁・自治体に提案する機会が少ない。
- 中小・スタートアップ企業の新たな技術・サービスを発掘し、省庁や自治体がそれを活用する機会を増やす仕組みが求められる。



## 【オープンイノベーションチャレンジの取組】

- 各省庁・自治体等が持つ課題を提案し、公募により、新たな技術・サービスを持つ中小・スタートアップ企業を発掘する。
- 発掘した中小・スタートアップ企業の中で潜在力のある企業を、内閣府が認定。メンター等による事業の磨き上げ、課題提案機関、大企業等との連携等を行うことで、事業のレベルアップを図る。その後、成果提案イベント(Demo Day)の実施等により、中小・スタートアップ企業の省庁・自治体に対する実証や試験的な導入への参入を支援する。



# 日本オープンイノベーション大賞

オープンイノベーションの先導的で社会インパクトのある取組を表彰し、ロールモデルとして発信。  
表彰対象分野ごとに、企業、団体・大学等に幅広くオープンイノベーションの取組を募集し、各省等で大臣賞を決定。  
その中で審査委員会が審査の上で総理大臣賞と審査委員会特別賞を決定。

- 内閣総理大臣賞 ..... 第2回：汎用的「知能ロボットコントローラ」の開発  
第3回：社会的意識決定アルゴリズムのオープンソース開発&実装基盤
- 科学技術政策担当大臣賞 ..... 第2回：血液を工場で作る～iPS細胞を応用した再生医療の産業化を目指して～  
第3回：生体認証とバイタルサインの同時計測が可能なシート型イメージセンサの開発
- 総務大臣賞 ..... 第2回：ビッグデータでAI翻訳を高精度化し翻訳産業に革命を起こす翻訳バンク  
第3回：「神戸市消防団スマート情報システム」の運用 【消防団員によるAIを活用した災害時の情報共有と安全管理】
- 文部科学大臣賞 ..... 第2回：九州大学起業部  
第3回：研究領域を対象にした、創業経営人材育成・輩出プログラム「Innovation Leaders Program」
- 厚生労働大臣賞 ..... 第2回：ライフインテリジェンスコンソーシアム(LINC)  
第3回：救急搬送時の遠隔作業支援
- 農林水産大臣賞 ..... 第2回：「食・原料の安全・安心」を担保するためのAI食品原料検査装置  
第3回：陸上養殖新産業による食糧危機の解決/地方創生
- 経済産業大臣賞 ..... 第2回：IoT×FinTechを活用したイノベーションによる新たな社会創造  
第3回：AI/クラウドを活用して等身大バーチャルキャラクタが警備・受付・発熱者対応業務を提供する「バーチャル警備システム」
- 国土交通大臣賞 ..... 第2回：全国対応、軽貨物の当日緊急配送を実現する“モノのMaaS”実現  
第3回：海洋油濁防止のための耐衝突・座礁性に優れた高延性厚鋼板開発・実用化
- 環境大臣賞 ..... 第2回：フードロス解決アプリ「TABETE」と自治体の協働による社会課題解決  
第3回：「アップサイクル×福祉×JR東日本」によるSDGs推進  
～駅等のインフラを活用した新しいアップサイクルモデルの構築と障害のある人も活躍できる社会づくりの応援～
- スポーツ庁長官賞 ..... 第2回：SPORTS TECH TOKYO  
第3回：Sports Camp Japan
- 日本経済団体連合会会長賞 ..... 第2回：AI/DL人材による事業データ活用 実践機会創出の取組「CDLEハッカソン」  
第3回：損害サービス・デジタル戦略（保険金支払のDX～人とデジタルのベストミックスの実現～）
- 日本学術会議会長賞 ..... 第2回：先導的な量子ビーム応用によるスマートな健康長寿社会の創出  
第3回：低出生体重児減を実現した“岩見沢市・北海道大学の産学地域共創プロジェクト”
- 日本オープンイノベーション大賞  
選考委員会特別賞 ..... 第2回：ビジネスエンジニアリング専攻におけるイノベーション人材育成の取組  
第2回：異分野連携による構造用セルロースナノファイバーの社会実装を価値共創～森とシューズをつなぐ～  
第3回：体内病院が未来を変える～シックケア社会からスマートライフケア社会への変革を目指して～  
第3回：産学連携でサイバー攻撃の迅速な検知と対策を実現する取組



JAPAN OPEN  
INNOVATION PRIZE